

# 郷土研通信



雪の結晶のひとつ  
言い換え「六花」

発行者：てしかが郷土研究会

北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10  
文責：松橋 秀和

## 第4回月例会開催

令和五年十一月二日（水）

午後七時からふるさと歴史館作業スペース（摩周観光文化センター内）で開催されました。

出席者は、平塚一明・安藤心・荻野峻宏・小林俊夫・斎藤敬子・松橋秀和・山本正裕・山本広（敬称略）の八名。

### 例会の議題

一、ふるさと歴史館の概要について

各自で館内を見学した。社会教育課では、来年度に向けて展示物の構成などを郷土研究会の協力を得て検討する準備を進めるとのことです。

二、郷土研究会活動拠点について

凡そのレイアウトはできているが、造作等については会員にも声掛けをして行うようにとの意見がありました。

三、その他

東北道中膝栗毛

荻野峻宏さんが東北（八戸く金石）約400kmを徒歩で旅行してきて、昨日弟子屈に戻りました。

次回の勉強会はその顛末を報告してもらおうことになりました。（乞うご期待）

仙台名物「ずんだ餅」のお土産を皆さんでおいしくいただきました。

山本広氏活動再開

山本広さんが、仕事・体調の都合で長い間郷土研に参加できませんでしたが、今回から活動を再開できるとのことです。山本広さんは、「広報てしかが」誌上で『主畜農業と小田切栄三郎』『開拓医 長谷部徳美』（？）』『てしかが文学散歩』などの大作を執筆されています。いずれ、これらを題材に勉強会でお話をしていただければと思います。

忘年会？

「何か今年一年の決まりがつかないから“忘年会”でもしようか？」との話が出ました。それで二月一二日を予定して、会場・会費は事務局で算段して後日お知らせします。

### 第3回勉強会

「幕末の探検家

松浦武四郎が見た

テシ・カ・ガ」完結

松橋秀和氏が前回から引き続き「幕末の探検家 松浦武四郎が見たテシ・カ・ガ」で、テシカガに入りクツシャロハ、クツシャロハから釧路までを解説しました。会員からそれぞれの知見や疑問点などが噴出、話に花が咲いて脇道にそれると和気藹々となり閉館時間ギリギリまでの勉強会となりました。

「幕末の探検家 松浦武四郎が見たテシ・カ・ガ」は今回で完結しました。

次回の第4回勉強会

皆さんのリクエストで荻野峻宏さんの  
（仮題）

「♪みちのくひとりの旅♪

400キロ！

「歩き旅で人情にふれて」です。

旅先でどんなエピソードがあつて、何を見て、何を感じてきたのか？

## 次回の月例会

一二月二〇日（水）

午後七時

「ふるさと歴史館」

摩周観光文化センター内



スキー

『北海道の民具』北海道新聞社刊から